



第2回 「キヤノン株式会社 川崎事業所」

Corporate Social Responsibility in KAWASAKI
企業×社会貢献活動



「レンズ工作教室」の様子

川崎駅から徒歩10分、木々と芝生の中に整然とスタイリッシュな建物が立ち並ぶキヤノン株式会社

川崎事業所を訪ね、お話を聞いてきました。

キヤノンでは「共生」の企業理念に基づき、CSR・社会貢献活動に積極的に取り組み、各事業所ではその地域に根差した社会貢献活動を企画し実施しています。開所翌年の2008年以来、毎月川崎事業所周辺の道路のごみ拾いを行う「クリーン作戦」、半年に一度川崎事業所から最寄り駅の川崎駅や尻手駅まで範囲を広げた「環境美化活動」等の、地域清掃活動を行っています。

季節毎の活動では、例年夏には女衾神社等近隣のお祭りへの参画、秋には事業所内の「さつまいも畑」に近隣の子ども会を招いて「子ども芋ほりイベント」を行ってきました。昨年と今年は残念ながらコロナ渦の感染予防対策のため中止となりました。

また、川崎市教育委員会からの依頼を受け、今年7月と9月に川崎市内の小学校で中高学年を対象とした「レンズ工作教室」の出前授業を予定しています。レンズの仕組みについて学び、身近な材料で実際のカメラにつけることができるレンズを工作するという内容です。

その他、この状況下でもできる新たな取り組みを検討し、社員食堂で「復興支援メニューイベント」を実施しました。自然災害により被害を受けた地域の食材を利用しつつご当地料理を提供し1食あたり定額の寄付をするというもので、集まった寄付金は支援団体を通して西日本豪雨被災地などに寄付されました。

最後に、「これからも一企業市民として、様々な取り組みを通じて、川崎市の発展に寄与していきたいと考えています。」というメッセージをいただきました。

9/1 水 ~ 30 木 ごえん薬市2021

会場 会場 会場 オンライン かわさきの市民活動を知ろう!

会場 市民活動団体のパネル展示×SDG's
オンライン YouTubeで活動紹介

9/7 19:30~21:00 オンライン 交流会(Zoom) 「川崎をつなぐ5人と話そう!」(事前申込制)

9月は、かわさきの市民活動応援を強化!



市民活動団体による販売とワークショップ

ながる 2021 9/12日 10:00~16:00

＜会場＞ グランツリー武蔵小杉ピロティ

応援ナビかわさきに夏休みボランティア情報掲載中!

第4回 パワーアップセミナー 手にしてもらえらるチラシで集客力をあげるコツ

8/28 10:00~12:30
講師:ナミキセツコ(かわさき市民活動センター職員)
オンラインのみ(Zoom)/定員20名 受講料:1000円
PeatixのイベントページからWeb申込みのみ(事前払い)



くわしくは、HPをご覧ください

■ご案内 MAP

かわさき市民活動センター (中原市民館と同じ建物)

「こども文化センター」は、市民活動の地域拠点

小中学生だけでなく乳幼児から高齢者まで、多世代が交流する施設「こども文化センター」。子どもたちの利用が少ない午前中から放課後までと夜間の時間帯は、児童福祉関係者や地域のみなさんの活動拠点としても利用されています。団体登録して各部屋や印刷機などの設備が利用できます(予約制)。各区のこども文化センターの運営について詳しくは、財団ホームページ(QR)をご確認ください。地域の方々との交流を通して、子どもたちの健やかな成長を図ります。

中野島こども文化センター(多摩区)

※こぶんたは、当財団が管理運営するこども文化センター53施設のキャラクターです。
※わくりんは、当財団が管理運営するわくわくプラザ102施設のキャラクターです。



ナンバーゼロ 2021年盛夏号(通巻No.297)

【編集・発行】公益財団法人かわさき市民活動センター 市民活動推進課

〒211-0004 川崎市中区新丸子東3-1100-12
電話:044-430-5566 FAX:044-430-5577
メール:suisin@kawasaki-shiminkatsudo.or.jp
WEB:http://www2.kawasaki-shiminkatsudo.or.jp/volunt/



Facebookでも情報を発信しています。
<https://www.facebook.com/kcac.suisin/>



ポータルサイト「応援ナビかわさき」
<http://kawasaki.genki365.net/>

2021年 盛夏号(通巻No.297)

ナンバーゼロ



目次

- P2 NPO法人岡上アグリ・リゾート LET'S be 日本語サロン
- P3 川崎盛盛祭実行委員会 認定NPO法人 あさお市民活動センター
- P4 連載コラム、告知

特集 | どんなアップデートしてますか? 若い力と世代交代で更新に取り組む。

新しい視点で地域を更新する若い力、団体の中の世代交代。 四者四様の取り組み方と受け継いだ部分について、聞いた。





どんなアップデート
してますか?

若い力と世代交代で更新に取り組む。

地域や団体につきまとう、後継者の不足と世代交代。
4団体それぞれの、新しいステージへと向かう取り組みを伺った。



「岡上エール」

NPOが切り拓く都市型農業の未来

若い力 × 農業 麻生区

NPO法人岡上アグリ・リゾート
代表 山田 貢 さん(39)



NPO法人岡上アグリ・リゾートとして農体験・食・地域交流などの非営利活動を実践する山田さん。同時に、農業生産法人の代表取締役として、生産およびワイナリーや農家レストランを営む実業家でもある。さらに和光大学で講演を行い、同大と協働で「岡上エール」(写真)などの加工食品もつくる。同大とは、竹間伐材などを原料に、エコで抗菌作用が高い食器の試験製作も行った。非営利活動とビジネスの両方から地域の課題に取り組み、多様なプロジェクトを圧倒的スピード感で実践するマルチ・プレイヤーだ。

若い世代を中心にスローライフへの関心が高まり、最近では憧れの「農」の世界。だが実際の農業は甘くは無い。「以前は3K*と呼ばれる環境で、もう大嫌いだかったです」と笑顔で話す。ヘアメイクアーティストとして東京都青山で活躍していたが、家業の農業を29歳で引き継いだ。「嫌いなところは良くしたい」という思いでプロデュース力を発揮。製品化だけを目標達成とせず、長期的に地域全体を考える。

山田さんが憂慮するのは、税制優遇期間が終了し農地の減少が爆発的に進行する生産緑地の「2022年問題」だ。すでに川崎市内は減少に歯止めがかからず、麻

生区の将来についても強い危機感を持つ。NPO法人岡上アグリ・リゾートでは、地域農家を支えるため、6次産業化や複雑な農地法に対処するためのコンサルティングを行う。「農地」だけでなく「農と食の知識や経験」を伝えたいと、子どもたち向けの農体験を実施。さらに、子育て期間の地域女性向けに食品関係の雇用創出や、広い年齢層に向けた健康促進的な「滞在型リゾート農体験」の可能性も探っている。かわさき市民公益活動助成金「コラボ50」を活用し、アフタースクール運営『NPO法人バンビのピエノ』と協働で、低年齢向け「しかけ絵本」も制作中だ。

ひらめきは尽きない。想像力豊かに次の一手を考案し、実践力をもって、地元・岡上を背景に「農地がある都市の未来像」を鮮やかに描き続けている。

*発音「さんけー」。きつい、汚い、危険の頭文字が全てKであることより、労働環境が良くないことを指す。



寄り添い続ける場所を、自分なりのスタイルで

世代交代 × 団体 高津区

LET'S be日本語サロンは、2021年3月に30周年を節目に解散した「LET'S国際ボランティア交流会」(以下旧LET'S)を継承して同年4月からスタート。代表を務める小野さんは、「サロン」とは「精神的に支える場」と話す。在留外国人への日本語学習という枠を越えて、暮らしの困りごとや小さなことを気軽に話せる場として、寄り添う存在であり続けたいという想いを込める。

25年のキャリアを持つ小野さんのボランティア初参加は、お子さんがまだ1歳の時。子育ては楽しいが社会参加も考えて

いた折、偶然「国際交流ボランティア」の存在を知った。小さい子連れでは受け入れてもらえないかも…と不安だったが、当時の小倉敬子代表に「やる気があるなら大丈夫、是非いらっしゃい」と笑顔で迎えてもらったことに、今も感動を禁じ得ないという。

世代交代の変化により、配布物をメール配信に切り替え事務業務のペーパーレス化を進めている。情報発信にSNS活用も検討中だ。将来的な課題としては、運営者の先細り。多忙な30代では難しくても、子育てや生活リズムが安定する40代

50代の運営参加を待ち望む。「大切な部分は変えませんが、自分なりのスタイルで運営していきます」と穏やかに語る。現在はコロナ対策で開催回数を減らしているが、「誰でも受け入れる姿勢」オープンマインドは受け継がれ変わらない。

曜日の関係で参加者の多くは多様な国籍の女性。学習の合間に相談が会話に上る交流の場である。拠点は高津区『溝の口カトリック教会』だが、コロナの状況が落ち着くまでは宮崎台にある『福祉パルみやまえ』で毎週月曜日にサロンを開催する。

街を面白くするのは、他でもない、住んでいる自分たち

若い力 × まちづくり 川崎区

「川崎盛盛祭実行委員会」
実行委員 今田 正則 さん(40)

川崎の活性化に取り組んでいる「川崎盛盛祭実行委員会」は、川崎市「第1回リノベーションスクール」(2017年)が縁で有志が結成したチーム。今田さんはその一員だ。同スクールの成果「日進町unico(以下ウニコ)」に事業所を構え起業もしている。2018年より『川崎盛盛祭』を開催。外国人観光客目線で日本を捉える趣向で、若い世代や旅行者を街に呼び込んできた。風が抜け、緑溢れるウニコビルの中庭にて、祭について伺った。

2018年に初開催の『川崎盛盛祭』は、当初、主に外国人観光客(インバウンド)を対象としていた。川崎大師駅近くの金山神社「かなまら祭」(1977年～)は、若い旅行者を中心に人気が高く境内に入りきらぬほどの大盛況。だが殆どが川崎市街には立ち寄りず去って行く。その人々を街に呼び込みたいと始めたイベントだ。翌2019年は、川崎に住む外国人留学生向けの日帰りツアーを秋に追加開催し、川崎を楽しむ「新しい層の開拓」を積極的に模索した。市認定の職人「川崎マイスター」の方々を招いたワークショップで「やじろべえ」や「食品サンプル」を一緒に作ったり、食事はホルモン焼きに挑戦したり…と、川崎の日常体験ツアーは大好



評だった。だが順調なインバウンド路線は、想定外のコロナ禍で昨年は休止となる。2021年の祭はどのように変化するのだろうか。

「私たちにとっても日進町はスタート地点、今年は発想を転換し“地元・日進町”に立ち返ります」と、今田さんは話す。今回は「ローカル(地元)」と「スタート・アップ(起業)」に着目したという。地域を体感できる祭の中に、起業前の「手応えを確かめるチャンス」の場を設ける。例として、店を始めたいと思っけていても、いきなり店舗を借りるとなると金銭面でも気持ちの面でも敷居が高い。そこで、イベントで出店を体験する機会を創出し「お客さんの実際の反応を感じて貰ったうえで、起業に繋げて頂きたい」と考案した。パフォーマンスやアート、物販等も想定。最低でも3組の起業したい方たちへ出店機会を提供する。「日進町ビル前の公開空地」(写真・

上)をメイン会場に利用できるよう交渉に臨んでいる。祭り自体は、日進町一帯を回遊する仕組みにして、地元の人にも地元の魅力と面白さを再発見してもらう。

川崎の楽しみと交流が深まるイベント『川崎盛盛祭』は、かわさき市民公益活動助成金の交付も受け、この秋10月または11月に開催予定だ。インバウンドに湧く2018年とは状況が激変したが、若い彼らは柔軟に対応する。地元の人々も盛り上げて、新たな視点で地域の更新に挑戦する。



中庭は、築50年超の簡易宿泊施設の建物一部を削り、火災時の延焼や類焼の影響を防止する空間に変わった。

第一線で働いていたシニア世代が活躍中

世代交代 × 団体 麻生区

認定NPO法人あさお市民活動サポートセンターは、2007年4月に「麻生市民交流館やまゆり」がスタートした後、翌2008年2月に同館を運営するNPO法人として発足。同館運営を通じて市民活動のサポートや助成事業、自主事業の開催などにも携わる。今年度より理事長に就任した中山さんは、2015年のアクティブ・シニア講座参加がきっかけで、翌年の退職直後からスタッフに加わった。その名の通りのアクティブ・シニア世代である。中山さんの理事長就任後の、組織内の変化について伺った。

まずは、事務仕事の一層のICT化を検討し、運営組織内の負担を減らす試みを進めている。変化に対応できるのは、プログラミングなどにも習熟度が高い若手シニア層の力だ。「事務の合理化と簡略化で、ボランティアの方々に、さらに、集う楽しさを味わってもらいたい」と考えている。また、新しさを盛り込みたい企画がある一方で、コロナ禍が続く中で、利用者のみなさんからの「再開を待つ気持ち」に間近に接し、守っていききたい部分もあると感じている。今後は教育系の講座から再開しつつ、様子を見ながら徐々に平常運

「麻生市民交流館やまゆり」運営組織
認定NPO法人あさお市民活動サポートセンター
理事長 中山 正夫 さん(69才)

営へと近づける予定だ。映像関係の機材を昨年整備したこともあり、保存してある映像の活用も考えている。様々な方法に挑戦しながら、より多くの市民に「やまゆり」に親んでもらいたいと考えている。

